

巻頭言

橋本俊哉[立教大学観光学部・学部長]

本号は豊田由貴夫先生の退職記念号です。

先生は1996年に本学文学部に着任，2006年に交流文化学科が開設された時に観光学部に移籍されました。学部在籍中は2008年から10年にかけて第4代観光学部長として学部をまとめていただき，その後も大学の図書館長や副総長を務められるなど，長きにわたって観光学部のみならず立教大学の要職を歴任してこられました。2019年4月からは立教池袋中学校・立教池袋高校の校長を兼務しておられます。

豊田先生は，文化人類学の立場からパプアニューギニアを中心とする南太平洋地域を研究対象として，近代化が現地にもたらす影響，開発と文化の問題，新興国家におけるナショナル・アイデンティティ形成の問題などの研究課題に加えて，東京ディズニーリゾート研究，睡眠と文化の研究など，従来の文化人類学の枠を超えたご研究にも精力的に取り組んでこられました。観光学部ならびに大学院観光学研究科においては，幅ひろく観光と文化の視点から，数多くの学生を指導していただきました。

先生は学部教員の誰からも頼りにされる存在でした。常に大局的な視点から学部を俯瞰しておられ，教授会で議論が煮詰まると，先生からの確なアドバイスをいただいたりすることが何度もありました。改めて感謝申し上げます。

なお，今年度は，交流文化学科の豊田三佳先生，越智郁乃先生，観光学科の梅川智也先生，そして教育研究コーディネーターの古屋恵さんも退職されます。豊田三佳先生と越智先生には，在職中，学部学生はもちろんのこと，数多くの大学院生を指導いただきました。梅川先生には，ご専門の観光計画領域の講義に加え，ゼミ生を「大学生観光まちづくりコンテスト」の受賞に導くなど，観光地の理論と実践の両面において学生たちをご指導いただきました。古屋さんには，インターンシップ学生の指導や社会で活躍する観光学部卒業生のネットワークづくりなど，学部のキャリア支援の基礎を固めていただきました。在職中に尽力いただきました皆様のご指導に対し，この場を借りて御礼申し上げますとともに，これからのより一層のご活躍をお祈りします。

社会における観光の役割は，ますます重要になってきています。新しい観光現象について学ぶことも大切ですが，観光が「人びとの生活を豊かにする」という重要な社会的意義をもつ学問であることを理解し，豊かな社会の実現に向けて新たな提案ができる人材が，今後ますます求められることになるでしょう。そうした観光教育を支える研究は，これまで以上に重要となるはずです。本号がその一助となれば幸いです。